

令和7年度

印西市民アカデミーだより

第2号

講座2：歴史散策①木下地区

5月16日（金）、第1回目の歴史散策を実施しました。

当日は曇り空で時折薄日が差し、蒸し暑さを感じる中でのスタートとなりました。講師には、木下交流の杜歴史資料センターの学芸員をお迎えし、木下地区の歴史をたどる散策を行いました。

木下地区は、江戸から明治にかけて利根川水運の要衝として栄え、特に木下河岸は大いに賑わいました。現在では当時の建造物はほとんど残っていませんが、講師による丁寧な解説に、参加者は熱心に耳を傾けながら、楽しく散策を進めました。

最初に訪れたのは、かつての旅籠「武蔵屋（国登録有形文化財）」。その外観から、往時の趣を感じ取ることができました。木下駅前では名物の煎餅を味わい、木下河岸跡では利根川の雄大な流れを眺めながら、当時の賑わいに思いを馳せました。

続いて、堤防を越えて、「吉岡まちかど博物館」へ。



武蔵屋

ここは、かつての廻船問屋・吉岡家の土蔵を市民団体が整備した施設で、木下貝層で作られた大きな灯籠にも驚かされました。さらに、平将門にまつわる伝承が残る「山根山不動尊」を訪れ、木下保育園跡地の脇を通って急な坂を上り、「木下交流の杜歴史資料センター」へ向かいました。



交流の杜歴史資料センター

貴重な資料を見学しました。

館内には、原始時代から近代初期にかけての木下地区

の歴史資料が展示されており、木下河岸のジオラマや蒸気船「銚港丸」、木下茶船の模型、馬込遺跡の瓦塔（県指定文化財）など、貴重な資料を見学しました。



木下河岸跡



吉岡まちかど博物館

その後は、木下万葉公園にある「木下音頭の碑」を経て、12～13万年前に形成された貝化石を多く含む「木下貝層（国指定天然記念物）」へ。かつてこの地が海であったことを実感できる場所です。

最後に訪れた「上町観音堂」には、銅造十一面観音立像（県指定文化財）が安置されており、毎年8月9日には護摩焚きとともに開帳されます。

蒸し暑い中ではありましたが、事故もなく、約3時間かけてゆっくりと木下の歴史を巡ることができました。